２００８年　東ブロック共同宣教司牧の歩み

Ⅰ　殉教・列福の年に際して

2008年度はペトロ岐部と187人の殉教者列福の年にあたり、京都の大殉教の巡礼会、京都の大殉教列福記念ミサ、そして長崎での列福式と催しへの参加による交流があった。ブロックを超えた催しであったが、各小教区から多くの人の参加があり共通の認識を持つことが出来た。

Ⅱ　ブロック司教訪問での分かち合い

９月21日(日)北白川教会にて、ブロック司教訪問が行われた。分かち合いのテーマは「現代の殉教について考える」、サブテーマは「殉教者の精神を模範として」「生活の場と福音宣教」が挙げられ、12グループに分かれて行われた。

ミサには150名を超える参加があり、河原町教会では主日のミサを１回取り止めて司教訪問への参加をを呼びかけた。担当司祭団全員が参加となると当然かも知れないが他の教会と歩調を合わせることが今回は出来なかった。分かち合いへの参加者は80名ほどで、ミサ参加者の約半分で、全体会で、司教様から「分かち合い」の重要性の認識不足が指摘され、今後の課題となった。しかし、修道者、信徒を交えた分かち合いそれぞれではかなり積極的に行われたようであった。

Ⅲ　その他行事への取り組み

「平和への歩み」「ウオーカソン」共に、他ブロックの教会への呼びかけが功を奏したのか多くの方の参加があった。しかし、ブロック内での呼びかけ、また教会外へのアピールの方法等工夫が必要ではないかの指摘もあった。

Ⅳ　担当者会議

ブロック会議の１週間前に開かれ、ブロック会議議案について前もって討議し、スムーズな会議運営には欠かせなくなっている。しかし、年６回の会議と担当者会議を併せると12回の会議となる。各小教区でも評議会・役員会が毎月行われているので、ブロック担当者の負担が大きい。司祭団もどの会議にも出席となると時間がとれなくて、結局は司祭団出席なしの会議が多くなり、時間のロスが出ていることがある。

Ⅴ　青少年対策

長期・短期計画両方に取り上げられているが、各小教区とも行事との関わりではある程度の効果がみられるが、高齢化が進む中で今後の大きな課題である。

Ⅵ　部会活動の充実

合同部会の立ち上げは、典礼部・広報部・教育部（青少年育成）で本格化してきている。各小教区において各部会が小教区評議会規約にそって充分機能を発揮するために、各部会の情報交換が不可欠である。